

埼玉県立小児医療センター

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来

病院の概要

所在地：さいたま市中央区新都心 1 番地 2

敷地面積：10,031m² 延べ面積：65,447m²

構造：鉄筋コンクリート地下 1 階／地上 1 3 階（免震構造）

病床数：一般病床 316床（PICU 14床、HCU 20床、NICU 30床、GCU 42床）

病院内に特別支援学校を設置

<主な診療実績（令和4年度）>

- 病床利用率 83.2%
- 1日平均患者数 入院 263人、外来 585人
- 新患数 12,947人、延患者数 128,652人
- 救急患者数 5,086人、救急車受入 3,118台
- 1,500g未満の低出生体重児 78例
- 手術 4,027件

病院の概要

- 小児専門病院
- 地域医療支援病院
- 総合周産期母子医療センター（県内 2 施設）
- 小児がん拠点病院（全国**15**施設、関東 4 施設）
- 小児救命救急センター（県内 2 施設）
- 救急病院
- 保険医療機関
- 災害拠点病院
- がんゲノム医療連携病院

診療科および専門外来

内科系

総合診療科
新生児科
代謝・内分泌科
消化器・肝臓科
腎臓科
感染免疫・アレルギー科
血液・腫瘍科
遺伝科
循環器科
神経科
精神科

外科系

小児外科
移植外科
心臓血管外科
脳神経外科
整形外科
形成外科
泌尿器科
耳鼻咽喉科
眼科
皮膚科
小児歯科

中央診療部門

集中治療科
救急診療科
外傷診療科
放射線科
病理診断科
臨床検査科
麻酔科
リハビリテーション科

専門外来

保健外来
発達外来
多職種プログラム外来
(30診療科)

当センターの役割 埼玉県の小児医療の最後の砦

県立病院として、地域医療機関で対応が困難な小児疾患に関する高度専門医療ならびに地域と連携した小児保健・発達支援を提供

第三次救急医療

小児集中治療室を中心とした高度医療を進め、365日24時間体制で県内全域の小児の第三次救急医療を提供する。

災害医療

災害拠点病院及び埼玉DMAT指定病院として、大規模災害発生時にはさいたま赤十字病院と連携し重篤救急患者を受け入れると共に、災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を行う。

周産期医療

さいたま赤十字病院と連携した周産期医療の充実を図り、超低出生体重児の診療や、新生児期の心臓・消化器等の多様な疾患に対する外科的な治療を積極的に行う。

小児がんセンター

小児がん拠点病院として、がんゲノム医療連携病院の指定によるゲノム医療やCAR-T細胞療法を実施し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援に取り組む。

高難度手術の提供

先天性心疾患の重症患者の手術を実施する。また、さいたま赤十字病院と連携して小児生体肝移植を実施する。

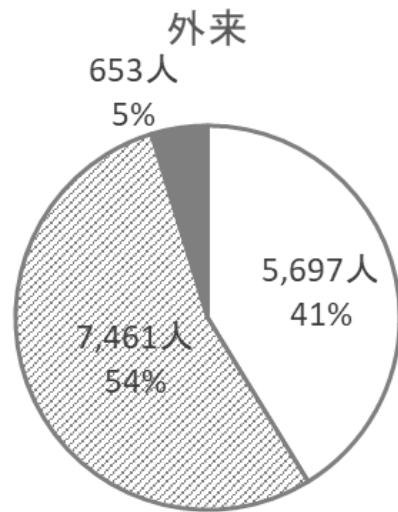
保健予防

先天性代謝異常検査を実施する。予防接種センターを設置し、予防接種に協力する。

小児保健・発達支援・虐待対応

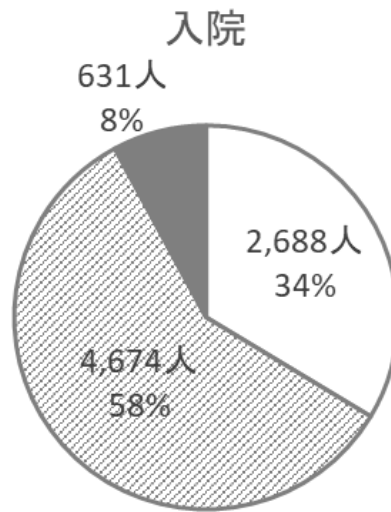
小児保健関係者への情報提供、相談対応、保健教育活動を行う。
発達や行動特性等の養育の悩みを有する家族に対する教育活動を行う。
児童虐待の早期発見・対応ができるよう、児童虐待に係る知識の普及啓発に努めるとともに、児童相談所、警察、市区町村等と連携し適切な支援を行う。

埼玉県立小児医療センター 令和4年度患者内訳（地域別）



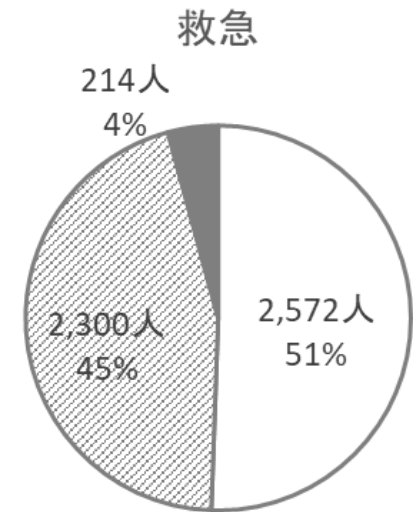
n = 13,811人

□さいたま市 ■さいたま市外 ■県外



n = 7,993人

□さいたま市 ■さいたま市外 ■県外



n = 5,086人

□さいたま市 ■さいたま市外 ■県外